

第1回富山市総合計画審議会 概要

場所:富山市役所 8階大会議室

日時:2015年8月31日(月)13:10~14:05

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 委員紹介

5 議事

(1) 総合計画審議会会長の選出について

- ・委員の互選により、総合計画審議会会長に高木繁雄委員が選出された。
- ・会長挨拶

(2) 会長職務代理者

- ・会長より会長職務代理者に宮口侗畑委員が指名された。

(3) 総合計画審議会部会の設置(案)について

- ・事務局より4つの部会と全体統括のため調整部会の設置が提案され、承認された。

(4) 総合計画審議会部会所属委員の指名について

- ・各部会の委員が会長より指名された。

(5) 各部会部会長の指名について

人材・暮らし部会	: 部会長に	宮田 伸郎 委員を指名
都市・環境部会	: 部会長に	神川 康子 委員を指名
活力・交流部会	: 部会長に	長尾 治明 委員を指名
協働・連携部会	: 部会長に	中村 和之 委員を指名
調整部会	: 部会長に	高木 繁雄 委員を指名

(6) 第2次富山市総合計画策定方針について

- ・事務局より第2次富山市総合計画策定方針について説明

(7) 第2次富山市総合計画策定スケジュールについて

- ・事務局より第2次富山市総合計画スケジュールについて説明

(8) 意見交換

(委員) まちづくりの総合計画なので、基本は人づくりだと考えている。まちの魅力がさらに高まることは大前提だが、若い人たちの将来に対しての希望、つまり結婚や出産、育児に対する支援、生きる力を付ける教育、さらに将来生きがいを持って暮らすための生涯学習へ。その一連の流れの中で、縦軸の見通しと子どもたち、学生等が生活し、学んでいく環境のあり方の中で人材について議論したい。

(委員) 前回の計画から10年経ち、これだけ世界や日本から注目を集めている富山市だが、全体としてまだ地味な印象を受ける。もう少しパワーを感じるような計画になるよう期待したい。

(委員) 人口減少、超高齢化が心配される中、人間全体の生命力が弱まっていると感じている。若い働き手がいなくなったら社会全体で支えないといけない。元気な高齢者は働くべきだし、若い人でも失業しても落ち込まずに頑張らないといけない。育児なども支援にとどまらず、できることは全員で頑張るような気持ちになれる計画にしてほしい。

(委員) 人が育っていくにも環境が大事だと考える。ここに住んでいる人が暮らし続けたい、来た人がもう一度来たい、老後にここで暮らしたいと思えるまちづくりが重要。

また、一步深めて、高齢化し自動車の運転を止めるかを考えた時に、コンパクトなまちづくりというものが富山市内に住む高齢者にとって重要になってくる。

優しいまち、高齢者が暮らしやすいまちであると同時に、若い人たちにとってもインパクトのある、学びたい、遊びたい、家庭を持ちたいという希望が実現できるような環境づくりをさらに考えていかななくてはならない。

(委員) P7 (6) のレジリエントシティという言葉は市民には馴染みのない言葉なので、馴染みのある言葉にしていきたい。都市防災等のキーワードが出ているので、このような観点が必要だという文言にしたほうがよい。

富山市だけの防災を考えるのではなく、全国の中で富山は安全な地域だと評価されている。他地域で起きた災害にどんな貢献ができるか、またあわせて富山市民がいかに他地域に対してリーダーシップをとっていかかという観点も盛り込んでいきたい。

(委員) 生活の基盤、働く場所をどう考えていくかという課題に取り組んでいるが、これからの生産人口減少下で働き手を減らさないために、地域内で働く場所をどのように魅力あるものにしていくか、また、働きながら生きがいを感じるようにしていくためには、リーダーシップをとることも含まれ、健康や医療も関連してくる分野だと考えている。

交流人口を増やしていくためには観光、歴史的文化資産を活かしたまちづくりが必要。また、定住人口が生き生き働ける場所の確保。定住人口が減る中で、交流人口を拡大していくために地域資源を活用してどのような魅力的なまちづくりを行うかといった視点で検討していきたい。

国際社会の中で、産業がどう展開していくかという切り口も重要になってくるのではないかな。

(委員) これから地方自治体が行政のサービスを提供していく上で、市民との協働は重要になる。富山市は市街地も郊外も中山間地域もある。地域毎に市民協働のあり方は異なる。それぞれの地域に合った市民協働のあり方を模索していく。

行財政システム、特に人口減少下での公共施設のあり方は避けて通れない問題だと考えている。いたずらに統合するのではなく、富山市の中でいかに一体化して市民に対してサービスを提供していくかを考えていきたい。

絆づくりということで考えると、地域の中での人と人のつながり、富山市全体の絆、市外の人たちとの絆、我々の世代と次世代間の絆をどのように強めていくか。絆というのは互いの信頼が基本になるので、次世代にとって信頼してもらえるプランの提示が重要。

現行計画策定時にアウトカム指標を非常に重視したが、このアウトカム指標がこの10年の政策形成の中でどのように議論されてきたのかも検証しながら、今後の10年を見通していくことが大事。

(委員) 富山市は都市化が進んでいるが、その中で人づくり、絆が重要。若い人たちはなかなか参加しないが、これからは地域の絆や地域づくりに積極的に関わってもらうことが大事。市民意識調査や市外の住民の意識調査を実施するそうなのでこれを地域づくり、絆づくりに活かしていきたい。

(副市長) 総合計画は10年毎に作成してきたが、今まではあれもこれもと総花的な計画になる傾向があったので、富山市は今後10年こういう方向に力を入れていけばいい等、特徴のある総合計画をつくってもらいたいと考えている。

(会 長) ご出席の部会長副部会長全員に各部会のコンセプトや具体的な考えを示していただいた。委員の皆さんには現行計画等の資料にも目を通していただき、各部会で議論を深めていただきたい。

副市長より話があった通り、丸く収めようとせず、10年後に富山市の人口が37万人になると予測されているが、富山が(全国的に見て)一番いい状況であり、10年後、20年後を見据えて調査等も実施していただき、将来に残る提言をしていただきたい。

目の前の課題解決と中長期のビジョンをどう整合性を持たせるかが一番大事。現在の課題だけ、また中長期的なことだけでは現状の課題は解決しないので、委員のみなさんには両方の視点を持ち、どうすれば両方解決できるかを各部会で議論していただきたい。

(事務局) 第1回目の各部会は10月上旬を予定している。

6 閉会

以上